

海外短期研修を終えて

函館校・人展地域科学課程 地域創生専攻

2年・佐藤愛美

米国ワシントン州シアトルにあるワシントン大学の3週間の短期英語プログラムに参加しました。このプログラムは英語を学習するためのものであるため、参加者は英語を母国語としない方が多かったです。私のクラスは12人中11人が日本人で、1人台湾からの参加者がいました。日本人同士でいると日本語で話した方がスムーズに意思疎通ができる点から、日本語で話してしまいがちですが、台湾から来た子を交えて話すときは自然と英語になるため、その子と積極的に話をしたり、グループワークをするときは一緒に活動していました。授業自体はテキストが一応配られました。それをあまり使用せず、映画を観てリスニング力を鍛えたり、外に出てシアトルの街も一緒に学ぶ活動をするなど楽しく学んだ3週間でした。

授業が午前中のみのため、毎週火曜日と木曜日は午後にはアクティビティがあり、美術館やフェリーで近くの島に行ったりしました。これは自由参加でしたが、最初のころはステイ先から学校までしか行き方がわからなかったり、公共交通機関に対して不安があるので、プログラムの方に連れていってもらうことでバスに慣れることができ、週末やアクティビティが無い午後に行きたいところへスムーズに行けるようになった気がします。



ワシントン大学は非常に広く、慣れるまでは目的地がどこにあるのかわからなくなるほどです。実際最初のテストの日に、校内で道に迷っている人をたくさん見ました。ただ、校内が広い故にランチプレイスやコーヒーショップ、売店等が何か所かあります。HUBという新しくできた建物の地下には、SUBWAYやピザショップが入っておりよくそこでお昼を食べていました。ホームステイ先によってお昼をお家にあるものの中から自由に用意していいところ、自分で外で買わなければいけないことと様々です。私は学校のある日はほとんど家からランチを持ってきていましたが、毎日買っている子もいて、それでお金の使い方も変わってくると思います。

シアトルは、私が想像していたアメリカより治安のいいところでした。ただし、ダウントウンに行くと、特に海側やパイオニアスクエア周辺は物乞いをするホームレスがいたり、身なりが不潔な人、異臭がしたりもしました。私のホストファミリーは、大学の外では男



性と話さないようにと私にいていたので、見た目では判断できない危険もたくさん潜んでいたのだと思います。それでも私がシアトルで接した方々はとても優しく、お店で会計をしているときに日本に行ったことがあると言ってくれたり、観光客が多く利用するダックツアーに行った時も、運転手が日本人がいるよと車内で話してくれたりしました。特にホストファミリーの紹介

で知り合った人たちは、自分たちが行ったことがある場所の写真を見せてくれたり、最初に会ったのはシアトルに来て 2 日目で全然しゃべれなかったにも関わらず、すぐ名前を覚えてくれて、いっぱい話しかけてくれたり、その後も何度もあったりしました。シアトルに関わらずどこの都市、もちろん日本にも言えることですが、いい人と悪い人は両方必ずいて、どちらに会うかは自分の察知能力と運でしかないような気がします。あとはそれを自分の行動力で楽しいものにできるかどうかです。私は運よく、本当に素敵な人々と今回出会うことができました。

私はこのプログラムに、あまり英語を勉強しないまま行ってしまいました。そんな私の英語ですら、ホストファミリーは聞き取ってくれるし、毎日仕事で忙しい中、夜ご飯の後に 1 時間以上今日あったことや日本のこと、仕事のことを一緒に話す時間を意識的にかはわかりませんが作ってくれました。そこで英語のアドバイスをもらったりしていました。英語力が不安で海外に出ないのはもったいないなと思います。3 週間で英語がとても上達するわけではないですが、興味があるならば技術的なことを考えるより、行動に出た方がいいのではと思います。